令和6年度 第1回教育行政評価委員会 議事概要

開催日時：令和6年7月31日（水）13時15分から

開催場所：市役所4階 406会議室

出席者 加納委員長、伊室副委員長、杉澤委員、吹上委員、上見委員、金山委員
事務局 谷口教育長、川部事務局長、東事務局次長、森口教育総務課長、藤山
教育委員会 各所属長

【事務局】 それでは、定刻になりましたので、ただいまより令和6年度第1回伊賀市教育行政評価委員会を始めさせていただきます。委員長が選任されるまで、進行を務めさせていただきます教育総務課の藤山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、谷口教育長より委員の皆様へ委嘱状をお渡しさせていただきます。

（教育長より各委員に委嘱状交付）

【事務局】 ありがとうございます。皆様の任期につきましては、令和6年7月1日から令和9年6月30日までの3年間でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、事項書に沿って進めさせていただきます。

開会にあたりまして、谷口教育長よりごあいさつ申し上げます。

【教育長】 皆さんこんにちは。大変今年は暑くて35℃を超える日が続いています。中学校の運動部の試合もなかなか予定通りに進まないとか、早くするとか、いろいろなことが起こってきて、プールも普通は暑い日なら入れますが、暑すぎて運動ができないという状況でございます。また、コロナも流行ってきて、いろいろなところで感染したという方もお見えになりますので、私たちも気を付けていかないといけないと思っています。

教育委員会の全般としましては、学校の教育を日常的に進めるということもありますし、社会教育の面、文化財の面、図書館の面など教育委員会として事業をしているところでございます。今の状況の中では、それぞれのところを皆さんからご意見や評価をいただきながら事業も改善して進めているところでございます。

この委員会ですが、評価委員会ということで昨年から引き続き残っていただいている方が2名、新しく4名の方に入っていて、教育委員会の様々な事業に対して、こういったところは改善が必要ではないか、この部分は廃止してもいいのではないかと、といったことを皆さんからご意見としていただいて、教育方針の中にも書いていますが、今年いただいたご意見を来年度の予算に反映させていきたいと思っています。

改善するという事は難しいもので、一つの事業を立ち上げたら、スクラップアンドビルドでこれは無くてもいいのではということも言われていますので、改善をしながら新しい事業を進めていかないといけないことでもあります。現場を見るとやっぱり必要だという部分もありますので、各課長が個々説明をさせていただきますが、その部分についても皆さんからご意見をいただきながら少しでも改善していけるよう

に進めてまいりたいと思っています。新年度の予算までに活かしていくとなりますと、10月ごろまでには3回開いていただいて、今日は、教育委員会の各事業について説明させていただき、2回目以降は、皆さんでこの部分についてはどうかということをご協議いただき、3回目でまとめていただけるよう、忌憚のないご意見をいただきながら、進めたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

【事務局】ありがとうございました。ここで教育行政評価委員の皆様をご紹介します。

(委員紹介)

続いて事務局の紹介をさせていただきます。

(事務局紹介)

次に会議の成立報告と委員のみなさまへのお願い事項について説明させていただきます。

(会議の成立報告、会議の公開、傍聴、会議の録音についての了承)

次に、本日の会議に使用する資料について確認をさせていただきます。

(資料確認)

それでは議事に進めさせていただきます。議事の1、「委員長、副委員長の選出について」を議題とさせていただきます。

伊賀市教育行政評価委員会の設置に関する条例第5条で「委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める」と規定されています。委員長、副委員長の選任は、いかが取り計らったらよろしいでしょうか。

【委員】事務局の案があれば。

【事務局】事務局の案があればとの声をいただきましたので、事務局からご提案させていただきます。よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

【事務局】それでは、委員長に加納圭子委員、副委員長に伊室春利委員をご提案させていただきます。

委員の皆さん、よろしいでしょうか。承認いただける場合は、拍手でご承認をお願いします。

(拍手)

【事務局】ありがとうございます。それでは、加納委員長、伊室副委員長に、それぞ

れごあいさつをいただきたいと思います。

【委員長】皆さんこんにちは。皆様よりちょっとだけ長くこの委員をさせていただいているということで、委員長としてご意見を広く頂戴したいと思っています。大変暑い日が続いておりまして、熱い思いは連日テレビでもオリンピックや大リーグの方で熱いニュースが届いて、暑い暑いと言っている間に8月を迎えます。教育行政評価も今日は1時15分からの開始ということで、かなり長丁場で皆さんに時間を費やしていただくこととなりますが協議の程よろしく願いいたします。

【副委員長】加納委員と多分同期に依頼を受けたと思っていますが、引き続き委員長の補佐役をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

【事務局】ありがとうございました。ここで谷口教育長につきましては、次の公務がありますので、申し訳ございませんがここで退席させていただきます。

－ 教育長 退席 －

【事務局】それでは、この後は、「当委員会の設置に関する条例」第6条第2項により、委員長が議長となるとありますので、以下の進行について、加納委員長にお願いいたします。

【委員長】それでは、事項書に従いまして進めさせていただきます。議事の2番、「令和6年度教育行政評価の実施について」事務局の説明をお願いします。

【事務局】（資料1－3から1－6に基づいて説明）

【委員長】今後の予定、評価の流れ等の説明をいただきました。差し当たって今日の会議でしていかなければならないこと、私たちがさせていただく2次評価について、各課の代表の方が来て説明もしていただきますが、手元には資料がたくさん事前に届けられています。見て理解するのはなかなか難しいと思いますが、皆様から何か質問などございますか。

よろしいでしょうか。今日は説明を聞かせていただいて、たちまち質問をいただく時には質問をいただいたらいいのですが、持ち帰って質問させていただくことも踏まえ、お願いします。

【事務局】今、委員長からご説明をいただきましたが、今日は限られた時間の中で、各課から説明をさせていただき、なかなか質問の時間も取れないことも考えられますので、会議が終わりましたら質問表をお渡しさせていただくか、メールで送らせていただきますので、その表に質問事項がありましたら書いていただいて事務局に提出いただきます。いただいた質問の回答を各課から事務局に提出されましたら、それをまとめて委員の皆様へ送付させていただきます。その質問の回答も踏まえて評価表に

記入していただくこととなります。すべてこの場で質問しなければならないことではありませんので、帰って思うことがあれば改めて質問をいただきたいと思います。

【委員長】先ほどの説明の中にもありましたが、すべての事業について評価をするのではなく、それぞれの委員が心を寄せている部分は重きを置いてよろしいでしょうか。

【事務局】そういうことでお願いします。

【委員長】皆様のご協力、お力添えをいただきたいと思います。よろしく申し上げます。時間設定はどうか。

【事務局】事項書に書かせていただいておりますが、この後、各課からの説明と質疑応答になります。

【委員長】それでは事業内容の説明に移ります。

【事務局】

資料2「令和6年度教育行政点検評価シート《令和5年度の努力目標（取組事業）》に基づいて各課から説明を行います。説明の順番は事項書に記載のとおりで、時間は目安としていただき、途中休憩をはさみ、17時までにはこの項を終了したいと考えておりますので、進行にご協力いただきますようお願いいたします。

それでは上野図書館から説明を行います。

【上野図書館長】（資料2に基づき説明）

【委員】読書感想文のコンクールで昨年も少し話がありましたが、令和5年度どうでしたか。

【上野図書館長】令和5年度は、226点の応募作品がありました。令和4年度は167点でしたので数字としましては、応募は増えています。ただ、満足できる数字とは思っていませんのでもう少し応募がいただけますようにPRに努めたいと思っています。青少年の三重県から全国につながっていく感想文コンクールに参加されている学校がたくさんありますので、感想文を書いている児童生徒としては図書館の方に応募される方だけではないと聞いていますので書いている子どもさんは少なくはないと考えています。

【委員】いがまの図書室は5年度からでしたか。

【上野図書館長】いがまの図書室は昨年度の11月にオープンしました。

【委員】1年間の推移はわかりませんね。

【上野図書館長】来館者数は、びっくりするくらい増えていまして、以前のいがま図書室の年間の入館者数が約3千人ですが、昨年の11月6日にオープンしまし

て、11月だけで9千人を超える来館がありました。それから毎月8千人台を維持していき、3月は少しだけ減って7千人台でしたが、このまま安定した形で入館者が継続していければと思っています。

【委員長】8千人を1日にすれば何人ぐらいになりますか。

【上野図書館長】300人ぐらいになります。

【委員長】どんな感じで入るのですか。入れ替わり立ち替わりですか。

【上野図書館長】カフェとか、公共の伊賀市立のいがまち図書室へ来られる方、DMG 森精機株式会社が専門書を沢山揃えていただいていますので、それは貸出ができませんが、それを閲覧に来られる方、カフェだけの利用の方もおられますが、それも含めた図書館という考え方をしていますので、図書館としては大変有難いことだと思っています。

【委員】分館が減っていると思いますが、今あるのはどこですか。

【上野図書館長】丸之内に上野図書館があります。分館については、島ヶ原、青山、大山田、いがまちになります。3月末までは阿山も分館の図書室でしたが3月末をもって閉館させていただきました。現在は、4か所になります。

【委員】森精機さんとの連携は、カフェとか言われましたが、中身はどうですか。

【上野図書館長】DMG 森精機株式会社の図書室は DMG の窓口で運営をされるのですが、いがまち図書室の業務委託として運営業務を DMG に委託をしています。トータルとして図書館運営を行っていただいていますので、例えば読み聞かせのボランティアと連携して読み聞かせをする時には、図書室のスタッフも読み聞かせに加わって行なうとか、8月8日にも夜のイベントを行います。横の連携も行っています。

【委員】貸出しが297千冊。それに対して本だけを読みに来る方もかなりいると言われましたが、貸出しはしないけれども利用しているというか、本を読んでいる人数はわかりませんか。

【上野図書館長】貸出し処理をしたらシステムの中で利用人数はわかりますが、ただ館内におられるだけの方がどれだけいるかというのはわかりません。

【委員】夏休みに未就学児から小学生を対象に「夜のとしょかん探検」をされていますが、夜に特化している意味は何かありますか。

【上野図書館長】ちょうど本日そのイベントがありまして、朝から準備をしています。夕方6時に開会し、8時までのイベントです。探検のような形で普段入れないバックヤードとか、一般の方が入れないところを案内しています。工夫をして、お化け屋敷に入るような飾り付けとかをしまして、照明を落として中でLEDのライトを行燈のような形で点けて、少し暗いところを探検するようなイベントとなっていますので夜に行っています。

【委員】提案になりますが、以前に図書館から要請を受けて星の教室というのをやりましたが、わりと子どもたちが喜んで来てくれました。今であれば、結構きれいな夜空が見られるのではないかと思いますので、そういった事業も考えられたらどうかと思います。

【上野図書館長】ありがとうございます。取組の中で検討させていただきます。

【委員】島ヶ原分館で読み聞かせのサークルを週に1、2回、南山城の小学校などに出向かせていただいて、利用させていただく時もありますが、島ヶ原分館には本が限られていて、リストもきちんとさせていただいていますが、こちらに無いものを取り寄せていただいて、1か月ぐらい長い期間がかかるのかと思っていたら、非常に短期間で取り寄せていただいて、喜んでいました。ありがとうございました。

【委員長】読み聞かせボランティアの後継者育成が出てきますが、今、学校の講師等の人々が足りなくて高齢化をしてきているという傾向がありますが、どうでしょうか。ボランティアはたくさんいますか。

【上野図書館長】全く同じことで、活動されている方が歳をとられて高齢化しています。新しい方も募集をしていますが、なかなか現役でお仕事をされている方で土日の活動が難しいところがあります。それでも活動をされたい方がいらっしゃるのではと思いPRを頑張っています。こんな活動をしていますと、ボランティアグループの活動自体を広報で紹介したり、2年前からボランティアグループの活動を文部科学大臣表彰へ推薦を始めたところ、2年連続伊賀市のボランティアグループが表彰を受けましたので、そういったことも報道等でPRすることで、こんな活動を私もやりたいと生涯学習の一環で活動を始められる方が増えてくれればという思いで、その効果があって一つの新たなグループをつくることができました。それはPR効果もありましたが1年に5、6回の研修をして実際の読み聞かせ経験のあるボランティアのところへ毎週見学に来たり、やり方の講習を行ったりを何回か重ねた後に独り立ちしていただくような取り組みをしたところ、応募をたくさんいただいて十数名のメンバーで一つのグループをつくることができました。その方たちは、今、月に1回ボランティア活動をして図書館での読み聞かせを継続してやっています。

【委員】阿山の分館が無くなりましたが、音羽、丸柱、河合の方が新堂の方に向かうことはまず無く、上野の方に行きます。阿山が無くなったので新堂の方に行くというのは少ないようです。

【上野図書館長】来年度から移動図書館を巡回することで地域の自治協に説明に回らせていただいたりしているところで、準備の段階ですので、また皆さんにお知らせできるように周知をきちんとしていこうと思っています。

【委員長】ありがとうございました。時間の関係もありますので次の学校教育課からの説明をお願いします。

【学校教育課長】（資料2に基づき説明）

【委員】まず1点目は外国語教育ですが、現場はかなり難しいということを経験し

ていますが、伊賀市は中3までのカリキュラムを作成されているのかどうか。もしそれができてないのであれば将来的なことをどう考えているのか教えてください。2点目は学力調査テストの関連です。速報を出されましたが子どもが自分から関心にそってもっとしようと粘り強く取り組む探究学習的なことと、対話的な学び、協働的な学びを保障している学校が、正答率が高いというデータが出ています。伊賀市においてそういったことを意識した教育、こういったことを反映した教育をされようとしているのか聞かせてください。3点目は、是非取り組んでいただきたいと思ったのが、いじめの問題のことについては重点的に取り組まれていることはわかりましたが、私が教育現場にいるときに、近年すごく増えてきているのが不安定な母親によるDVです。これは絶対あると思いますので、これに対する対応をどうしているのかは、位置付けて明確な事業として取り組むべきだと思います。以上3点お願いします。

【学校教育課長】各学校の外国語教育カリキュラム作成は、CanDo リストを基にして領域ごとに項目をあげて指導計画としています。中学校は、同時にシラバスも提示して行っています。小学校についても研修等を通じて中学校との接続を図れるようにしていますが、まだきちとしたカリキュラムというところまではいっていないので今後充実していかなければならないと思っています。学力に関わっては、市としても子どもたちの探究的な学びに繋げていくような時間を総合的な学習時間を含めて設定していくように働きかけを行っているところです。対話的な学習については、特にICTを使いながら、まず自分で考える、それを仲間とロイロノートなどを使いながら共有する、そしてさらにそれをまた自分に返して深めるという伊賀市のモデルをつくって、個別最適な学びと対話的な学びを深める取り組みを各学校で進めるような指導をしています。不安定な母親の問題ですが、これは学校だけではなかなか解決できませんので、スクールソーシャルワーカーにも間に入ってもらったりとか、市役所に今年からできました子ども家庭支援課、児童相談所と連絡を密に取りながら、子どものことだけでなく母親に対してどういった支援をしていくのか、相談をしながら、ケース会議等を開いていただき、具体的な支援にあっていたくのは、例えば専門的な機関であったり、社協さんであったり、いろいろな機関にも入っていただいているような状況です。それをやったからすぐに効果が出るかということ非常に難しいところもあって、粘り強くしていけないと思っています。

【委員】意見として、学力の関係で平均値を上回れば学校は良しとするというのではなく、家庭学習の時間が中学校では全く短いというのは見えている訳なので、家庭での学習をどうやって改善するのか、難しいことですが、そこに働きかけをしなければ特に中学生は難しいと思います。

【学校教育課長】一方で、キャリア教育で早くから自分の目標をもって、その目標に向かって学習することが必要になると思います。中学校3年生でも、受験勉強を始めることが遅い子どももたくさんいて、何とかという子どもが多いのも実際なのですが、早くから目標をもって自分はこうなりたい、そのために勉強しようという意識を高くしていく必要もあると思っています。

【委員】それは児童生徒に対してだと思いますが、保護者にも勉強が必要ではないですか。

【学校教育課長】保護者には難しいところがあって、読書も家で読書習慣をつけてほしいと保護者にかなり言わせていただきましたが、なかなか難しい部分があって、保護者自身も自分が読む経験が少ないと子どもに本を読ませたり、子どもを図書館に連れて行ったりということはなかなかしないので、学校で図書館の充実も含めてしていかないといけないと思っています。

【委員】学校の特に夏場に関して、具体的に言えば草刈というか環境が追い付いていない状況で、もっと校長先生が地域に働きかけをしたらいいし、自治協に対してもっと積極的にと思います、遠慮している感があります。

【学校教育課長】特に中学校で部活動の地域移行の話もさせていただきましたが、子どもが減ってきて、成り立たない部活動が多くなってきて、グラウンドを使わないことも出てきています。例えば霊峰中学校では外の部活動が一つもありません。グラウンドを使うのは体育で少し使うだけで、使わないからどうしても草が生えます。子どもが走りまわっていたら、草はなかなか生えませんが、そういうこともあってどこも草が生えてしまいます。

【委員】これをどうやって改善して環境整備をするか、地域の方がもう少し連携をしてもらわないと学校だけでは、無理なところもあるし、外注すれば経費が掛かるだけだと思います。

【学校教育課長】阿山中学校でいうと斜面も結構急で、あれを保護者でというのも難しいこともあって、教育総務課と学校施設室とも連携しながら、学校だけでは難しいことも検討していただいているところです。

【委員】教科書の話がありましたが、デジタル教科書がどれだけ普及しているのか教えてください。保幼小の駆け橋プログラムについて、これは文科省が力を入れているものですが、それがどれくらい作成できているのか、私が関わっているところは、つくることだけで満足してしまって、実際に運用することが本来の目的なのにつくことで疲弊してしまって、その先に進んで行っていないという状況を見ますが伊賀市はどうですか。

【学校教育課長】デジタル教科書については、国からこの教科をこの学校に入れましょうということで、いくつかのところに英語、算数、数学を中心にすべての学校ではありませんがデジタル教科書が入っています。先生用の指導書についても各学校に一つはデジタル教科書に対応した指導書を配布しています。そういったものを使えばこれまでであれば資料集みたいなものを買って教科書と別に持っていたものが、そのデジタル教科書の中にたくさんの資料が入っていますので、そういったものを瞬時に活用できたり、使えるようになっていきます。デジタル教科書でなくても最近は教科書にもQRコードが付いていて、それをタブレットで読み込めばそこからいろいろなものが出てくるものも増えてきていますので、そういったICT機器を活用しながら各学校で授業を行っています。保幼小の連携については、伊賀市では保幼はアプローチカリキュラム、小学校1年生はスタートカリキュラムのどちらも作成しています。作ってそれで終わりではだめなので、小学校の教員が、アプローチカリキュラムを行っている保育園、幼稚園へ子どもたちの様子を見に行く、保育園を出た子どもが小学校1年生でどんな状況かを保育園、幼稚園の先生にも見てもらう、その上で情報交換をしてもらう、そういった機会をつくったり、それぞれの

校区で考えてもらうために研修の場に時間を取り入れて、保幼小の接続の研修会を年2回開催していますので、その中で話し合いをしてもらう時間を設けています。

【委員】アプローチした後だけでなく1年間、駆け橋プログラムとして最近言われているので頑張ってください。

【委員】学力のことについて現場を離れたからこそ思い返すことがあって、全国学力テストが始まったころは国語と算数、数学、これだけで学力が果たして計れるのかと、その当時はマスコミなどがどこが1番、秋田、石川、富山、福井、常連のところがいわれていて、その学力を上げるために学校で生徒が一生懸命取り組んできたわけです。この前その結果が出まして、特に石川県は非常に被害を受けて中学生でも学校が被害を受けたので違うところへ行って、寮生活みたいなことを送りながらも結果があまり変わらなくすごいなあという話をしていました。今から15年ぐらい前であつたら学力テストの結果が出たら、平均点より低い学校の校長が呼び出されて、上げるためにもう1回教育方針を出すといった取り組みをしていたと聞いたことがありました。今になって考えますと大阪の岸本さんが言っていた見える学力、見えない学力ということで、確かに学力で全般的に捉えたら国語、算数だけでも特化して計れるのではないかと、いろいろな意見がありますが、見えない学力というか、生きて働く知恵とって昔教えてもらったことがあったと思います。学力は国語と算数だけではない、確かに出来ないといけないかもしれませんが、受験学力よりも、もっと人間的な生きて働く知恵、そういうものをたくさん評価できる学校現場みたいな、そういう風土を醸成する、つくっていくことが大事で、それも学校だけでは無理なので地域でもいろいろな形で子どもたちを育てていくようなことができればと思います。

【学校教育課長】言われるとおりで、あくまでも学力学習状況調査は、見える部分の一つの尺度と私たちも考えていますので、これがすべてではありませんし、子どもたちが生き抜く力、そういったものは特にキャリア教育の部分で多くの人と出会いながら確かな力をつけていかなければいけないと考えています。

【委員長】特別支援教育について、令和5年度も学級数がすごく多かったです。令和6年度も学級数は増えているのでしょうか。学級数に関わらず、通級指導をすべての学校で実施できると書いてありますが、具体的に描けないので教えてください。

【学校教育課長】今、数は持っていませんが、支援学級の数はい前より上昇傾向ではありませんが、多いのは事実です。一番多い学校で8学級あります。できるだけ状況も見ながらしていますが、特に小学校へ入学する段階で保護者の方も不安が大きく、教育相談の件数も多く、検査を受ける数も多くなっています。保幼小の接続の部分でもう少し様子を見ることが出来る子どももいると思いますので、保育園や幼稚園で心配な子どもはみんな教育支援委員会の案件となりますので、知的部分で支援が必要な子どもは支援学級で指導が必要と思いますが、特に情緒の部分はその段階ではなかなか専門家も見極めが難しいこともあるので、その接続カリキュラムで様子を見ながらやっていくことも必要ではないかと考えています。今までのように早期に発見してたくさん入級して途中で退級するといったようなものでは、なかなか進まないのもう少し絞っていきたいと思っています。

【委員長】支援学級に入れてもらえなかったのが通常でという話を聞きますが、どうでしょうか。支援学級を希望していたけれども指導の段階で通常学級でがんばりなさいということになったと思われませんが、通級指導でということは可能なのですか。

【学校教育課長】支援学級に入級すれば授業の半分以上を支援学級の授業をできるだけするようにいわれています。半分も別に授業をすることまでは必要ないけれども、心配な部分もあって自立活動が必要な子どもは、別室で8時間以内の通級指導をすることが可能になっています。特別支援学級に入らなくても自立活動だけ別にちょっとする子どももいます。支援学級からいきなり通常学級にすぐ行きなさいというと不安も大きいので、でも何時間かは少し見てほしいという子どもが通級学級で指導を受けながら普通学級に帰っていくというようにしていきたいと思っています。

【委員長】それがすべての学校で整備できているのですか。

【学校教育課長】今はまだです。する方向で考えています。

【委員長】人も教室も必要になりますね。

【学校教育課長】今、加配がついていますが、令和8年度から支援の必要な子ども13人に1人の加配をつけることになり定数化されることになります。すべての学校で13人はなかなかいないのですが、10人とか多くいる学校に1人の配置をして、少ないところにその先生が行くとか、難しいのですができればそこから保護者に送ってもらう、言葉の通級をしている感じでできれば一番いいのではと考えています。

【委員】通級の先生は、拠点校みたいなどころから必要な子どもがいる学校へ週に少しだけ行かれてその子どもを見るということは、その学校にその先生はいないので普段の生活が分からないままに指導にあたることになり大変ではないですか。

【学校教育課長】各学校に特別支援のコーディネーターの教師がいますので、コーディネーターとか普段その子がいる通常学級の担任との連携が必要になると思いますのでその時間も確保しないといけないと思っています。

【委員】13人の子どもがいて、配置された学校はいいが、それで充実した支援での教育ができるのか、難しいことだと思います。

【学校教育課長】反対に今加配がついている学校も13人いる学校もそんなにはありません。13人いないからといって引き上げられてしまう可能性があるのが13人になるように近隣の学校と組んで1人を配置して回るといった形を取らざるを得ないと思っています。

【委員長】今後、その方向性を教育委員会で考えていただくということですか。

【学校教育課長】令和8年度には確実にできるように、来年から試験的にできるように考えています。

【委員長】それだけニーズがあるということですか。

【学校教育課長】特別支援学級が非常に多いので、そこを何とかしていきたいと思っています。

【委員長】ありがとうございました。意見としてまたその折に提出させていただくということでよろしくお願いします。それでは次に給食センターからの説明をお願いします。

【給食センター夢所長】（資料2に基づき説明）

【委員】島ヶ原小中学校は今年度限りで自校給食から給食センターからの配送に替わると聞いていますが、小中学校は合同で自校給食をしていましたが、4月からは合同で配送となるのか、別々の配送となるのか教えてください。

【給食センター元気所長】島ヶ原につきましては、中学校給食が、いっこ給食センター夢、元気は小学校給食になっていますので、それぞれのセンターから小学校へ、中学校へと配送させていただく計画になっています。時間的な調整とかも現地でしながら、同じものを量だけ違うという形ではなく、メニューも若干変わってきますが、栄養面では年齢に応じたものを食べていただけるようになると思っています。

【委員長】どうしても摂取量の加減とかで、小学校と中学校と一緒に難しいと以前に聞いたことがあります。それぞれに元気と夢から配送されて、昼食の時間帯も違うからですね。

【委員】自校給食の施設自体もかなり老朽化していて、部品とか交換しなければならないけど、予算的にも高く、修理をしないといけないと聞いたことがあります。

【委員長】食数はあまり増えないのですか。

【給食センター元気所長】食数は、元気の方は増えますが、予想以上に子どもの減少に歯止めが利かないと感じています。

【委員長】当初3千食はありましたね。

【事務局長】元気については4千食に対応できるように施設整備をしましたが実際は、すべてが寄ってきてもそこまでいきません。

【委員】島ヶ原の小学校も中学校も同じメニューをいただきますが、ご飯がとってもおいしく、小中同じ釜のご飯を食べてすごくあったかい気持ちになって、伊賀市内でもそういうところがあるというのもいいとすごく思いました。配送を別々に行けば経費がかかるのではないかと思います、どうでしょうか。

【給食センター夢所長】元気と夢で事業者が異なっていますので、それぞれから配送ということになります。

【委員長】地場産率が64%と62.3%とありますが、どうやって出すのか教えてください。

【給食センター元気所長】金額をベースで出しています。例えば中学校給食であれば1日1食305円、小学校では280円をベースにしていますが、農林振興課で生産者育成の観点での補助金が出ていますので、そういった部分で学校給食へ納入して、金額の%で出しています。

【給食センター夢所長】賄材料費で給食の食材を購入していますが、食材の中で三重県産、伊賀産、国産とあって、そのすべての賄材料費の金額分の三重県産、伊賀産の合計が地場産率となります。

【委員長】地場産はどこまでですか。

【給食センター夢所長】三重県産と伊賀産になります。

【事務局長】米はすべて伊賀産コシヒカリです。

【給食センター元気所長】小学校はパンが中学校より回数が多いので、週1回水曜日はパンと決まっています、国内産のパンを学校給食会から買わせてもらっていて、学校給食会からお米を買うのは伊賀産の米を買わせてもらっています。

【事務局長】農林振興の予算を使って、伊賀スマイルという給食をさせもらっていて、それには伊賀牛や伊賀豚の食材をつかって、割といいものを食べていただいています。

【委員長】スマイル給食の時は伊賀産が多いのですか。

【給食センター元気所長】多くなっています。普段も地場産は入っていますが、スマイル給食はそれより地場産率が高くなっています。お楽しみの給食になると思います。

【委員長】ありがとうございました。また、質問を別途させていただくかもわかりませんがよろしくお願い致します。

(休憩)

【委員長】それでは次に文化財課からの説明をお願いします。

【文化財課長】(資料2に基づき説明)

【委員】伊賀地域は文化財、大切なものがたくさんあって目に見える建物も含めて、他も天神祭りや神事踊りなどたくさんありますが、そういったことを地域の方が、得てして昔からおみえの方はある程度知っていますが、新しく来た方にはなかなか分かりにくいところがあって、いろいろこういったいい発信を拝見させていただきましたので、その地域のことを非常にわかるから是非それぞれの地域で活用できるように、学校の方でも話がありましたが、すぐ身近に目の前にこんないい教材があ

ることを活用してもらえればありがたいと思います。校外学習で小学生も中学生も来てもらっている時にパンフレットもそうですが地域のボランティアの方、ガイドさんも含めて生の声で説明してもらおうと全然見方が違ってくるような感じがします。私もなるべく国の文化財を見学に来られた方、鐘楼も含めて気が付けば説明をさせてもらっています。そうすると生身で伊賀に来て文化財に接するということは、ホームページもありますがそれ以上になります。地域の連携とボランティアガイドも含めて大変かもしれませんがよろしくお願いします。

【委員長】このようなパンフレットはなかなか見ることがないので周知をお願いします。それでは次に教育総務課と学校施設室からの説明をお願いします。

【教育総務課長・学校施設室長】（資料2に基づき説明）

【委員長】教職員住宅が4室空いているということですが、市内の先生は、他所から来ていただいている先生が多くて必要と思いますが、どうして人気がないのですか。

【教育総務課長】要因として考えられるのは、補助金が出ないことです。

【委員長】家賃は高いのですか。

【教育総務課長】家賃自体は、安く設定していて個人負担で2万4千円です。

【教育総務課】それに対して数年前までは県費で住宅補助がありましたので、もう少し安かったのですが、それが無くなりました。補助がなくてもそれでも安いのですが、老朽化が進んできているのと場所がゆめが丘にありますので、学校に近いところで民間のアパートを借りたりとか、そんなに高くはないけれども、同じお金を出すのであれば少しきれいなところとか、そういった感じであまり人気がないのではと分析をしています。

【委員長】2万4千円であれば安いと思いますが、きれいなところはもっと高いと思います。かつてはくじ引きで入ってもらっていましたが改修の余地はあるのでしょうか。

【教育総務課長】改善については、募集を今まで年度末だけだったものを年度途中でも入っていただけるような形はとっています。

【委員長】建ててからかなり経っているのですか。

【教育総務課長】平成9年ですので築27年になります。

【委員】中瀬小学校について、一番古いと思いますが、長寿命化でかなり改修をされたのでしょうか。

【学校施設室長】中瀬小学校は長寿命化の改修は、まだ行っていません。耐震はしています。学校施設長寿命化計画を策定していて、その中で中瀬小は令和11年度までの間で改修計画は立てていますが、いつするかということはまだ定かではありません。

ません。教育総務課で進めている学校みらい構想との関係がありますので、整合を図りながら対応させていただきたいと考えています。

【委員】中学校で一番古いのは大山田ですか。

【学校施設室長】大山田になります。大山田中学校については昨年度に大規模改修工事ということで、体育館の床を張り替えたり、トイレは便器を洋式化にし、内装をタイルからクッションフロア、要するに水を使わなくていいように改善をしています。

【委員】それは体育館だけですか。

【学校施設室長】トイレの改修については、校舎棟も行っています。

【委員】大山田中学校自体、かなり老朽化していますが。

【学校施設室長】耐震補強については、大山田中学校も含めてすべての学校で終わっています。

【委員】内部の構造が気になります。

【学校施設室長】躯体自体は大丈夫です。コンクリートの中性化とか強度の面についても問題はありません。どうしても仕上げ材、防水もそうですが劣化というのは歪めませんのでそれを改修していく形になります。

【委員】スクールバスに経費がかかっている、大変だと言っているのですが、遠距離通学者の通学経費の関係で、行政バスで登下校する子どもたちの補助は全額市負担で三重交通バスも全額市負担になっていますが崇広中の伊賀鉄道については、全額市負担じゃないのは何かあるのですか。

【教育総務課】補助の基準は、中学生の場合は5km以上となっています。5kmを超える地域ですと通学にかかる経費の全額を補助しています。5kmを超えない地域については、基本的に2割の補助になるのですが、伊賀鉄道だけは利用者を確保する観点から4割に引き上げています。本来は2割のところを4割補助しています。崇広中の生徒さんについては、5kmを超えない地域となっています。

【委員】5kmは無いのですが以前は三田の子どもたちも伊賀鉄道に乗っていたけれども、今は新居の一部の東高倉の子どもだけで、それも子どもたちが減っていますので本当に少数のところだけですが、これだけを見ると何か不公平感を感じました。

【事務局長】伊賀鉄道は伊賀市が取得していますので、伊賀鉄道を維持継続していくという伊賀市の政策もありますので、その点もあって補助率を変えているところです。

【委員】廃校の件で、くの一さんが活用している話を聞いて、この10校の廃校の中で、地域で様々ですが活用がされているものを、将来活用が難しいというこ

ともあろうかと思いますが参考に聞かせてください。

【教育総務課長】廃校になって一番苦慮しているのは、プールです。本当に使い道がなく、地元へ貸出して一定使ってもらっている学校もありますが、プールに至っては全く地元の方も使えないので、我々もつぶしてしまいたいのでその費用を予算要求するのですが、優先すべきことがあるということで、ままならないまま今に至っています。あとは民間提案で廃校を何とか使えないかということで、今組上に乗っているのが、丸柱、玉滝、神戸が一定手あげをしてもらって事業実施に向けて地元と調整している状況はあります。他の施設については教育委員会で倉庫として使用したり、地元で使ったりしている状況です。

【委員長】奨学金について、どうなっていくか決まっていますか。

【教育総務課長】伊賀市奨学金と同和奨学金の創設については、今年度も3回委員会を開いて一定の支給基準や所得制限について合意形成を得ましたのでその内容を基に今年度中に条例の制定や規則をつくったり、予算要求や議会に諮っていくようなところを目指す段階まではきています。

【委員会】伊賀市奨学金と同和奨学金は、これからは2本立たないのですか。

【教育総務課長】同和奨学金の支給額が、今考えている奨学金よりも優位になっていて、仮に新しい奨学金ができたとしても、同和奨学金を今受けている方については大学を卒業するまで今の同和奨学金を継続することを考えています。

【事務局長】経過措置として今受けている方は、卒業するまでは今の奨学金を受けられるということになります。

【委員長】高等教育と書いてありますが、伊賀市奨学金も大学まであるのですか。高校3年と大学4年の7年と思えばいいのですか。伊賀市同和奨学金も同様で、ササユリは大学だけですか。

【教育総務課長】伊賀市奨学金と同和奨学金は、高校と大学に加えて高専や専門学校なども対象としています。ササユリは、大学に加えて短大、高専なども対象としています。

【委員】廃校のプールをどうするかという話ですが、伊賀市はプールでサンショウウオ、外来種の捕獲したものをプールで飼育はしているのですか。

【事務局長】伊賀市はしていません。名張市では外来種をプールに集めています。今法律が変わったのか、外来種を捕獲すること自体だめになったので、名張市もこれからはされないのではと思います。

【委員】結局処分するということですね。法律が変わったから。そういうところに利用することもできないということですね。

【委員長】防火水槽とかにはならないのですか。

【事務局】多分、いろいろな基準があるので難しいと思います。防火水槽については消防で計画的にできていますので、ある程度カバーはできていると思います。

【委員長】ありがとうございました。それでは次に生涯学習課からの説明をお願いします。

【生涯学習課長】（資料2に基づき説明）

【委員】生涯学習推進啓発事業の指標で、重点事業を4つともこなしたら100%ということですか。重点事業が4つありますが、防災、健康、環境、人権を1年間に4つとも全部何か学習会とか事業を行ったら100%ということですか。

【生涯学習課長】その通りです。これは生涯学習推進委員が進めている生涯学習の事業の委託料を実績値としています。

【委員】生涯学習支援員が企画してする中で重点事業が4つあるということ、重点事業に関係のあるような事業は自治協も行っているけれども、そこは含めていませんか。

【生涯学習課長】含めています。

【委員】それは生涯学習支援員が関わってなくてもですか。

【生涯学習課長】生涯学習支援として関わっているものが生涯学習支援の委託料になっていますので、その委託料を使っただけの事業が重点4項目をしていただくことになっています。

【事務局次長】委託先が自治協ですので当然、支援の関わりがあると思いますので、自治協が行ったかどうかという判断だと思います。

【委員】放課後子ども教室が一つ増えていますか、どこですか。

【生涯学習課長】柘植地域でもう1か所開催することとなりました。「寺小屋つばめ」というところです。

【委員】どこで行っていますか。

【生涯学習課長】柘植の市民センターを活用して行っています。放課後児童クラブを行っているのは、柘植、古山、西柘植、玉滝、そしてつばめで、柘植で2か所目になります。

【委員】それに関わって、平均利用児童数ということは、5か所へ行っている子どもの平均ということですか。そうしたら7人ぐらいのところもあれば、2人ぐらいのところもあるということですか。

【生涯学習課長】利用している児童数としましては、古山で3名、柘植で6名、西柘植で12名、玉滝で22名となっています、令和4年度から実施しているつばめ

につきましては13名と聞かせていただいています。登録者数がこの人数になります。

【委員長】そうすると述べ実施回数と述べ参加者数はどう見たらいいのですか。

【生涯学習課長】述べ実施回数が4地域で開催された回数で、述べ参加者数は、その合計になってくるのですが、週に何回か開催しているところもあれば、週に1回のところもあり、回数によって平均が変わってくると思われます。

【委員長】目標値と実績値が少し違いますが何かありますか。方向性は継続となっていますが。

【生涯学習課長】方向性としては、子どもの数も減ってきている中で子どもの居場所を確保していく、こういった事業は必要ですので継続をさせていきながら、より子どもたちが利用できる場所をつくっていくことが大事と考えていますので、一度、目標値であったり、指標のあり方を考え直す必要があると思っています。古山で3人であってもその場所に居場所が必要と感じますし、だからこそ、来なくても開けておかなければならない場面もあると想定しながら少し目標値のあり方を検討したいと思います。

【委員】たわらやのことで、目標値の半数にも達していないのに継続となっていますが、魅力のある施設となっているのかどうか、たわらやは単体ですよ、例えば奈良の今井町であれば、いろいろなものが他にもありますが、たわらやだけでやっていくというのは来場する人もここだけでというのはなかなか難しいのではと思いますが、そのあたりの考えは何かありますか。

【生涯学習課長】この場所は、たわらやの前には、これまで旧青山支所があったり、旧の公民館がありました。公共施設の最適化計画によって、公民館と支所については、整備されて取り壊されましたが公園を設置していますので、こういったものとあわせて利用を増やしていければと思っていますが、この建物自体が補助金を活用して建てていますので、令和10年度までは補助金の適正化の法によって動かすことができませんので、それまでは、例えば地元でもっと有効的に活用していただくような方法を地元の意向を聴きながら検討していきたいと考えています。講看板についても維持管理については、支所が取り壊されて少し離れたところに新しい青山支所が建っていますので、そちらの住民自治協の生涯学習支援員が開け閉めや管理、利用者が来るときに開けたり、子どもたちがくれば少し説明をしたりしていますので、さらに充実した使い方については、地元の意向を聴きながら考えたいと思います。

【委員】どうしても常時開いていないから、小学校や中学校の校外学習で利用してくれて、連絡があると教育委員会の文化財から説明をしてくれて有効に活用できていますが、あとは観光振興会とか、住民自治協議会とか、イベントをすると開けてもらえるけど、そうでない時は閉まっています。昔はある程度開いていた時期もありましたが、今は要望がなければ閉まっています。しかし地域の方でいろいろと活用はしていただいているみたいで

【生涯学習課長】今は編み物教室とかもやっていたいただいているのは聞かせていただ

いています。

【委員】広い場所はあるのですか。

【生涯学習課長】2階建てになっています。

【委員】地域の老人の方と子どもが交流できるような場とかを地域でしようと思っ
たら、そういうことができる場所ですか。

【生涯学習課長】地域の意見を聴きながら、せっかく講看板もありますので、そう
いったことに興味のある方がもっと来ていただける方法も地域と考えていく必要が
あると思っています。

【委員】文化財の歴まちで初瀬街道が指定されていますし、駅からも近いし、どん
なふうにしたらいいか、地域の方も思案しています。

【委員】生涯学習でも、青少年でもいろいろな事業を進めてもらって大変だろうと
思います。是非聞きたい文化とかいろいろ学習がありますが、参加者の小学生、中
学生、高校生のアンケートではないけれども、学校校区を超えて体験したり参加し
たりすることを保護者を含めてアンケートを取られたことはありますか。

【生涯学習課長】青少年に関係するものについては、確認はしてきていませんが青
少年であったり、公民館事業であったり、そういったものに子どもであったり、保
護者が参加してもらえそうなものとして、子どもたちに体験活動をさせたり、経
験を積ませたりとかが子どもの学力の向上につながると考えています。出来るだけ
子どもが体験するようなものが増えていければと考えているのと、そういう意味で
こんな事業をしていますということを開催に時に説明をしたりしていますので、子
どもと保護者の交流事業で経験させていくものは、今後も考えていければと思いま
す。

【委員】ボーイスカウトをさせてもらっていて、隊長さんとかリーダーさんがいつ
も困っているのは興味を持って月2回の活動をしてもらえるかどうかということ
で、新しい民間プログラムを立てるという時には、子どもたち、保護者にアンケー
トをして、国際交流をしたり、環境保護をしたりしていますので、時代によって興
味の湧くことが変わってくるかもしれないという気がします。

【生涯学習課長】子どもが興味を持つこと、伊賀の文化を大事にすること、生活経
験が向上すること、こういったものを考えながら事業をしていければと考えていま
す。

【委員長】青少年センターの目標値が変わったのでうれしいです。毎年、補導件数
が上がっていて、目標は0でしようと言わせていただいていたいました。あってはなら
ない数字ということで意見を言わせていただいていたいました。この補導活動回数
の310回というのは、目安は何でしょうか。これは上野だけですか、伊賀全体で
すか。

【生涯学習課長】伊賀全体です。伊賀地区少年警察協働員の補導というのがありま

して、これはゲームセンターや大型店舗に協助手員16名で年間10回周らせていただいています。青少年センターの補導員の定時補導で月曜日から金曜日まで毎日いろいろな場所を回っていただきながら行かせてもらっているのと、定時補導のもう一つ、ハイトピア周辺とかドリームキャンディ周辺とかを回るのを年間42回ほどになります。それと三重県警察少年指導員の特別補導がありましてこれが11回あります。この11回の中に上野の花火であったり、賑わいフェスタとか天神祭りの時に特別に回らせていただいています。

【委員長】いがまちとか、阿山とか、各地区の青少年の健全育成の活動はここには入っていないのですか。

【生涯学習課長】入っていません。これとは別に青少年育成市民会議の中でそれぞれの地域の団体が活動しているので別になります。

【委員長】他、質問はよろしいですか。多岐にわたっているので、じっくり思い出しながら、わからないことがあれば質問を出させていただくことになると思いますのでよろしくお願いします。それでは生涯学習課の質疑は終了とします。

すべての事業内容の説明・質疑が終わりました。委員会全体を通して、何かご質問、ご意見等ございませんか。質問も含めて評価をしていただきますがよろしいでしょうか。無いようですので、それでは、その他の項について事務局お願いします。

【事務局】長時間にわたり、ご審議いただきありがとうございました。第2回委員会までのスケジュールの調整をさせていただきたいと思います。流れとしましては質問書の締め切り、その後各所属で回答をさせていただいた上で評価シートの提出締め切り、第2回の委員会となります。

(それぞれの日程を提案、決定)

【委員長】ありがとうございました。次回の開催、質問の締め切り、評価提出の締め切りについて、よろしくお願いします。

本日の委員会の議事内容の確認については、委員長に一任していただくことをお願いします。

それでは進行を事務局にお返しします。

【事務局】加納委員長様、ありがとうございました。

それではこれをもちまして、令和6年度 第1回教育行政評価委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。

(16時55分終了)